

インターネットは、輝かしい地球社会を建設するために欠かせない情報の大動脈となるメディアであり、社会の発展を願う多くの人の善意と知恵、努力によって創られた。ところが、個人の知性や理性を高めるためのメディアを、取り分け日本では、有害情報対策が不十分な状態で、子どもたちを不幸に巻き込む快樂のネット利用の波に乗せてしまった。そのため、「自然環境」と「社会・文化環境」がとこのつても、「情報環境」に対する適切な配慮がなければ、子どもの成長に良い環境とは言えない。

「好ましい情報環境」を築くために、子どもの成長段階に応じた電子映像メディアの与え方について、次のような点に十分配慮したい。

〈七〇歳〉

赤ちゃんが初めて出会うメディアは、お母さんである。乳児にとって最高のメディアは、テレビやパソコンではなく、母親である。乳児は母親の言葉をしっかりと聴いているので、母親は、我が子の目をしっかりと見て、話しかけたり、絵本を読んだりして、言葉にならない言葉（喃語）で対話しよう。

授乳時は、乳児との絶好のコミュニケーションの場である。授乳しながら、ケータイでメールなどしていたら、「わたしの方を向いて。」という乳児の声を無視

することになり、母子の信頼関係が築けない。

乳児のいる部屋では、テレビやDVD、タブレットなどを利用しない。特に、耳や目に刺激の強い電子映像メディアは絶対に避ける。

〈二歳〉

絵本の読み聞かせをして、絵本を通して我が子と語り合うことが大切である。

日本医師会が提言しているように、テレビやビデオ、DVD、ゲーム、タブレット、ケータイなどの電子映像メディアはまだ与えない。タブレットやスマホを乳幼児の遊び道具にするのも危険である。



〈三歳〉

日本医師会が、「小学生までは、電子映像メディアに接触する総時間を一日一時間以内にする。長時間の視聴は、言語発達が遅れる危険がある。」と警告している。

テレビを子守り代わりに利用しない。絵本の読み聞かせを続ける。

〈三歳から〉

ゲームをしていけば、子どもは静かにしているが、ゲームは子どもの脳や発達への害になるので、言語能力が発達するこの時期、ゲームをさせないようにする。既に利用している場合は、一日15分以内に制限し、ゲームよりもおもしろい遊びや屋外の遊びを誘導する。

絵本の読み聞かせを大切にすること。

〈小学校低学年〉

インターネット教育の開始時期は、「判断力」や「自制力」「責任能力」がある程度身に付く高校生からが望ましい。しかし、小学生になると、パソコンを利用する機会があるので、電子映像メディアに向かう総時間（清川氏は、一日2時間以内と提言）に注意を払う。

初めてのインターネットは、ケータイやスマホではなく、家庭で親と一緒にパソコンでさせる。

本をしっかり読む力を育て、友だちとの会話や遊び、手伝い、運動など、様々な実体験を大切にすること。

〈小学校高学年〉

我が子からの「ケータイ、買って。」に負けず、次のような点について、きちんと話し合ってから判断すること。
○なぜケータイ、スマホが欲しいか。

○様々なリスクが生ずることを丁寧に説明し、理解させる。

○目的外使用が問題を生むので、利用目的をはっきりさせ、目的以外の利用をさせない。

○インターネットは、パソコンで親と一緒ににする。

○ケータイやスマホを持つ時期をできるだけ遅らせる。

§

下田教授は、高校生までの配慮について、具体的に提言しています。しかし、紙面の都合により、最も大切な成長期でありながら、つい無防備な状況になりがちな小学校入学以前と、小学生段階のみ紹介致しました。

もっと詳しく知りたいという方は、ぜひとも、「液晶画面に吸いこまれる子どもたち〜ネット社会の子育て〜」（下田博次・下田真理子共著・女子パウロ会出版）をお読みいただきたいと存じます。

併せて、清川輝基氏の著書『メディア漬け』で壊れる子どもたち（清川輝基・内海裕美共著・少年写真社発行）も、必読の書と考えています。

子育ての大変なネット社会ですが、ご家族全員のご理解とご協力で、子どもたちの「好ましい情報環境」を築かれますことをご期待申し上げます。